



活動報告：7月29日(土)

生きがい講座 夏休み特別企画 野球で自由研究

企画担当学生 健康体育学科2年 高田勝太郎



夏休み特別企画「野球で自由研究！」は、25名の小学生が参加し、楽しい時間を共有しました。経験者も初めて挑戦する子供たちも一堂に会し、神事努准教授が講師をつとめ、ボールの投げ方や変化球について専門的かつ分かりやすい解説を行いました。保護者の方も熱心に観覧し、子供たちが楽しむ様子とともに学びの瞬間を共有しました。この企画は、子供たちが自由研究を通して好奇心を追求し、新たな知識を得る素晴らしい機会となりました。今後も同様の企画を展開し、地域と共に学び合える場を提供していく予定です。ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。



活動報告：12月9日(土)

生きがい講座 ジャングル大冒険！！

企画担当学生 健康体育学科2年 長谷部舞依



小学校低学年を対象に、様々なゲームを通して多様な動きを体験できるような活動を行いました。初めて顔を合わせる子どもたち同士でしたが、すぐに打ち解けることができ、チーム内で協力しながらゲームを楽しむことができていました。今回青木ゼミの学生が主体で計画・準備を進めており、普段小学校ではやらないようなゲームを工夫して実施していたことが印象的でした。私たち支援学生は当日の準備を行ったり子どもたちと共にチームに入りゲームに参加したりすることで、子どもたちに対しどのようなルール作りや声掛けが適切なかを学ぶことができました。今回学んだことを今後の講座やイベントでも活かしていきたいと考えています。



教員リレーコラム

体を動かして遊べる場所がない！

子ども支援学科 准教授 青木 康太郎



今の子どもたちは、昔の子どもに比べ、体力も運動能力も低下しているといわれていますが、その原因として「サンマがなくなった」と言われることがあります。

サンマ(=三間)とは、時間、空間、仲間の三つの間を表しています。かつての子どもたちは、放課後や休日になると、野山を駆け巡り、自然の中で思いきり体を動かして遊んだものです。ところが、社会環境の進展とともに都市化が進むと、子どもたちの身の回りから自然と触れ合える機会が徐々に失われ、自由にのびのびと遊べる場も少なくなっていきました。また、塾や習い事によって日々の生活が忙しくなると、友だちと遊ぶ時間も短くなり、お互いの時間が合わなくなって一緒に遊ぶ友だちも少なくなっていきました。さらに、インターネットやスマホ、テレビゲームの普及によって一人で楽しく過ごせる遊びが増えたこともその要因の一つといえるでしょう。つまり、遊ぶ時間や遊べる空間、遊ぶ仲間の喪失によって戸外で体を動かし遊ぶ機会が減少し、子どもの体力や運動能力も低下していったというわけです。

最近、公園で遊んでいる子どもをみていると、ゲーム機を持ち寄って遊んでいる姿を見かけることがあります。大

人からすると「外でもゲームかあ」と思うのですが、子どもの声に耳を傾けると、単に「ゲームをしたい」ということが理由ではないようです。ある調査によると、2割弱の小学生が「公園は過ごしにくい」と感じており、その理由として「公園のおばちゃんがガミガミうるさくてよく遊べない」といった近所の大人からのクレームや、「ボール遊びができない」「ルールが厳しすぎてつまらない」と公園の使いにくさといったことが挙げられていました。筆者も「近所の公園で鬼ごっこをして遊んでいたら、近所の人から『うるさい！』と学校に通報し、翌日先生から注意された」という話を聞いたことがあります。つまり、子どもの視点に立つと、「思いきり体を動かして遊びたいと思っても、そうやって遊べる場所がない！」という実情が見えてくるわけです。

昨年、長野市のある公園が一軒の住民の訴えをきっかけに廃止になったことが大きな話題となりました。こどもの居場所づくりが求められる今日、子どもの体力や運動能力の向上を図るうえでも、子どもがのびのびと自由に体を動かし、思う存分遊べる場や機会を様々な場面で作っていきたいものですね。

心響かせ 地域と育つ

響育

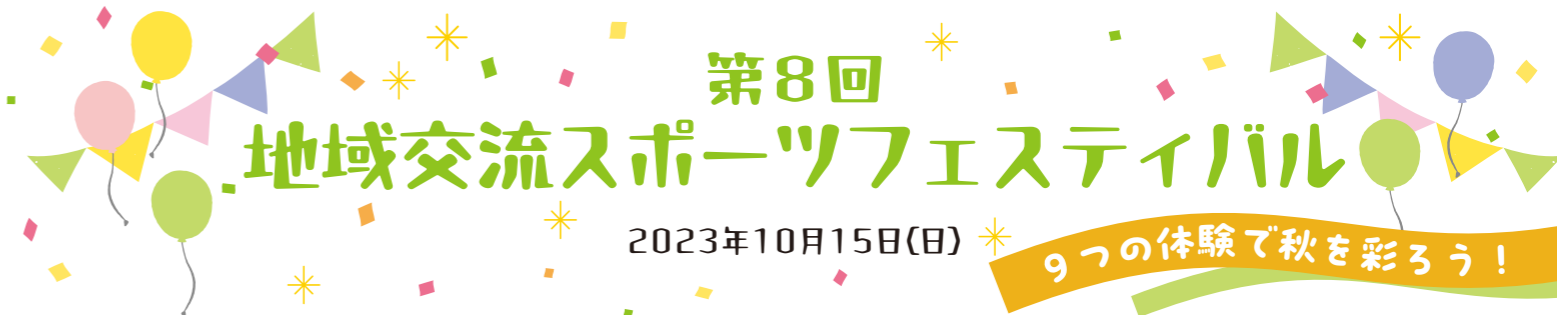
きょういく

第36号

令和6年2月14日 発行



國學院大學人間開発学部 地域ヘルスプロモーションセンターだより



第8回目となった地域交流スポーツフェスティバルは、大学と地域を「スポーツ」と「健康」で結ぶ、地域ヘルスプロモーションセンターの一大イベントです。昨年まで新型コロナウイルスの影響で人数制限を設けた開催でしたが、今年はその制限を緩和し、「9つの体験で秋を彩ろう」をテーマに多くの人が心を交わす場となりました。参加者同士の心の交流がより活発になり、イベント全体に温かい雰囲気が広がりました。

今年度は子どもから高齢者まで楽しめる9つのブースを設け、体組成や栄養調査、ロコモ診断などの生活習慣に役立つ測定ブースや、アスレチック、レクリエーションゲーム、映像や機器を使った運動ゲームなど、様々な体験型ブースを展開しました。当日は残念ながら雨模様でしたが、イベントが始まると同時に多くの方が足を運んでくださり、午後になると同時に天気も回復し、参加者が増えました。屋外のエリアは天気の影響で屋内に移動せざるを得ませんでしたが、多くの来場者が積極的に参加し、自由に楽しんでた様子が伺えました。

支援学生の会(ちーへる)の学生は、1、2年生メンバーを中心に準備を進め、経験が少ないがゆえに様々な困難にも直面しながら、経験豊富な4年生のアドバイスや、健康体育学科の各ゼミのご協力により、無事に開催に辿り着きました。

このイベントは、地域の皆様と大学との絆を深めつつ、健康と運動の楽しさを広く伝える非常に貴重な機会であり、来年度に向けて、この貴重な経験を生かし、より素晴らしいイベントを創り上げるべく、今後の活動に全力で取り組んでいきたいと考えております。

支援学生の会 (ちーへる) 会長のメッセージ



支援学生の会 会長 健康体育学科2年 出牛 悠紀

地域ヘルスプロモーションセンターは、年間約10回のイベントを開催し、「地域に育てられ、地域と共に育つ」という人間開発学部の目的を達成するために活動しています。

今年は新型コロナウイルスの規制が緩和されたこともあり、より多くの地域住民が参加しやすくなるように、チケット制の廃止などの取り組みを行いました。また、楽しんでもらうための工夫として、スタンプラリーや景品を用意するなど試行錯誤しながら準備しました。広報活動も夏休みの初めから積極的に展開し、チラシの配布や地域の施設への訪問を通じて、早い段階からスポーツフェスティバルに注目してもらえるように心がけました。当日は、幼児から高齢者まで幅広い年代の方に来場していただくことができました。その中には「親子で楽しく参加できた」「学生の方々が親切に接してくれた」といった嬉しい声も聞かれ、これが私たちの活動への励みとなりました。

今年度は3、4年生の先輩方に助けてもらうことが多く、来年度に向けて自分たちの学年が主体となって取り組む自覚を持つことが重要だと改めて強く感じました。そして、今後も地域に寄り添い、「また参加したい」と思っただけのようなイベントを開催できるよう、活動していきたいと思っております。

國學院大學人間開発学部 地域ヘルスプロモーションセンター

〒225-0003 神奈川県横浜市青葉区新石川3-22-1 電話・fax：045-904-7707

http://www.kokugakuin.ac.jp/human/kchpc.html



ブースごとの報告

いろいろな動きをためしてみよう

執筆担当学生 健康体育学科4年 佐藤 千晶

私たちは、のぼる、とぶ、すべるなど様々な動きができるように道具を並べて、サーキット形式のアスレチック広場を作りました。当日



は、未満児から小学校高学年まで幅広い年齢の子どもたちが遊びに来てくれました。子どもたちの、怖がりながらも学生と手を繋いで平均台を渡っている姿や、鉄棒で保護者の方たちに笑顔で技を見せている姿が印象的でした。このアスレチックで体を動かす楽しさを感じてもらえていたら嬉しいです。

スポーツゲームセンター

執筆担当学生 健康体育学科4年 岡林 飛翔

スポーツゲームセンターブースでは、サッカーボーリングや反応時間の測定など、5つのゲームを行いました。スポーツを通じて、地域の



方々との交流はかけがえない経験となりましたし、何回もゲームに参加していただいた方もおり、皆さんが笑顔になっていただけたと感じています。さまざまな方たちと交流を深めることができ、とても有意義なイベントでした。今回のスポーツフェスティバルでの学びや経験を残り少ない学生生活、その先の進路でも活かしていきたいです。

いろいろな遊びにチャレンジ

執筆担当学生 健康体育学科3年 齊藤 乃愛

ラダーゲッターやストラックアウトなど身体を動かす様々な遊びを提供しました。子ども達の的に当たって喜んだり、子ども同士でスコアを競い合ったりしながら楽しむ様子が見られました。ま



第8回 地域交流スポーツフェスティバル

た、子どもと保護者、友達、学生などの大人が、遊びの楽しさや子どもの育ち・上達への喜びを共有することで子どもとの暖かな関係を築くだけでなく、子どもの今の発達の様子を明確に捉えたり、育児への意欲関心を高めたりすることにも繋がっていきと感じました。今回のような人と人とを繋げる関わりをさらに促す活動を、地域交流の場として作っていきたいと考えています。

え、なんで?

執筆担当学生 健康体育学科4年 古賀 真音

当ブースでは「え、なんで?」のテーマの下、主に剣道に関わる催しを実施しました。具体的には太鼓の達人を模したリズムゲームで剣道の達人になってみたり、竹刀を振ると点滅するLEDの仕掛けで絵柄が見えたりする計6つのゲームを体験していただきました。



お子様のみならず保護者の方も一緒に、ゲームの思考を巡らせる光景が印象的でした。当たり前と思っていることに立ち止まり「え、なんで?」と考えてみることで、視点を変えて物事を見てみることで、とても大切なことだと再確認できました。

みんなでエンジョイ! 広いグラウンドで野球遊び

執筆担当学生 健康体育学科4年 島 孝明

本来であれば、球技場で並びっこベースボールを行う予定でしたが、生憎の天気により室内で紙鉄砲作りを行いました。近年では、子どもの投能力の低下が著しいことが報告されています。紙鉄砲を使って正しい投動作のコツを掴むことが目的です。当日は、人間と動物の身体の違いや人間特有の身体特徴など、自分自身についての理解も深める講義が行われました。多く方にご参加いただき、親子が一緒になって紙鉄砲を鳴らす光景が印象的でした。



食品サンプルを使った食事チェック

執筆担当学生 健康体育学科3年 藍野 はな

食育を楽しんでもらうため、普段の食事についてひと目でわかる食育SATシステムを用いた栄養評価を行いました。実寸大のフードモデルを用意し、前日の食事をおぼんの上に乗せることで楽しみながら自分たちの食事の栄養について考える機会になりました。どのような食事内容、食事が適切であるかについても知ることで、食育について興味を持っていただけたら嬉しいです。



体験してみよう! スポーツ現場での応急処置

執筆担当学生 健康体育学科4年 齋藤 愛佳

いざというときのための応急処置として、心肺蘇生やAEDの使い方、車椅子、松葉杖歩行などそれぞれブースに分けて行い、幼児からお年寄りまで幅広い年齢の人たちが来てくれました。怪我はいつ起こるか分からないため、今回の体験を今後活かしていただけたら嬉しいです。



脳と身体を一緒に鍛えよう!

執筆担当学生 健康体育学科4年 谷本 真

本来であれば球技場での予定でしたが雨天のため室内で、コーディネーショントレーニング(頭と身体を使って複数の動きを同時に行い、脳を活性化させる運動ゲーム)を3種類実施しました。3種類の運動ゲームを通じて、「自分の身体を思い通りに動かせるようになる」きっかけを掴んでもらえていれば嬉しいです。楽しみながら運動する子供たちの様子が印象的であり、ゼミ生にとっても貴重な経験になりました。



みんなでやろう体力測定

執筆担当学生 健康体育学科4年 加藤 まなみ

体力測定、口コモチェックを行いました。子供も大人も本気で、そして楽しんで参加してもらうことができました。学校の体力測定では実施しないような項目もあったので、子供もいつもとは違った体力測定が体験できたのではないのでしょうか。大人になると体力測定をすることも少なくなります。今の自分の体を知り、今後について考えてみる機会になっていたら嬉しいです。



活動報告: 7月22日(土)

わくわく企画 ~はしって、とんで、なげて、あそぼう!!~

たまプラーザキャンパスSS1アリーナにて、「わくわく企画~はしって、とんで、なげて、あそぼう!!~」を実施し、集まった小学1~6年生約40名とその保護者とともに「ますおに」、「しっぽとり」、「ドッチビー」を行いました。

今回の企画は、年間を通して、唯一学生が主体となって準備・運営の全てを行うイベントであり、学生にとつ



企画担当学生 健康体育学科2年 阿閉 怜奈



ての一大イベントでした。それぞれの得意分野を活かして、周辺の小学校に広報を行ったり、進行の準備を行ったりと、昨年からの課題だった広報、参加者の収集をこなすことができました。一方で、私自身、1から企画の担当をしたことがなく、経験の少なさから準備に手間取ってしまった期間があったことからこの経験を活かして今後の活動に取り組んでいきたいと感じました。また企画を通して参加した子どもたちの笑顔を見て、非常に手ごたえを感じることもでき、これからも地域の方々と運動に関する企画を通して交流していきたいと思いました。

